

授業科目一覧

1. 医療政策						必修科目	
科目	1. 医療提供政策論	科目コード	4 0 1 1			医療管理	医療政策
担当責任教員	河原 和夫（東医歯大）	単位	1	担当大学	A		
過去の政策の検証及び内外の政策の比較研究を行うことにより、我が国特有の医療環境や社会制度のもと、国民の福祉向上のためにどのような政策を提示し、選択するかについての講義を実施する。その内容は、国民医療に与えた医療制度に関する根本的理解、現在の社会資源のもと病院運営を行う上で、最も効率的な選択について医療制度面からの検証、政策の実現手段である厚生労働省をはじめとする中央官庁の基本的政策の理解を目指すものである。(1)医療制度史:救済政策を含めて我が国は、長い伝統的な医療提供の歴史を有してきた。しかし、1874(明治7)年の「医制」発布が我が国の近代的医療制度が確立した時期である。その後、健康保険等を設立し、1961(昭和36)年に「国民皆保険」制度を確立した。こうした医療制度の変遷が、国民医療に与えた影響などについての講義を行う。(2)病院経営:多くの医療機関にとって経営は重要な問題である。同時に医療提供体制を維持していくためにも安定的な経営は不可欠である。医療経営の問題について考察する。(3)保険者機能:いわば医療費の支払い者側から医療を捉えることは重要である。加えて保険者機能の在り方について考える。						○	○
科目	2. 医療社会政策論	科目コード	4 0 1 2			医療管理	医療政策
担当責任教員	白瀬 由美香（一橋大）	単位	1	担当大学	D		
医療現場にかかわる行政・企業・医療機関などは、数年を単位として繰り返される制度変更により振り回されがちであり、長期的な視点を持つことは非常に難しいかもしれない。だが、医療や介護を含め、私たちが暮らす社会には、30年～50年、場合によっては100年という長期の時間をかけて変化していく部分があり、それが社会システムを規定する基盤となっている。本講義では、長期的かつ大きな視点から社会構造を踏まえてケア(医療・介護)およびケア政策を捉える観点を養うことを目的として、講義・ディスカッションを進めていく。						○	
科目	3. 世界の医療制度	科目コード	4 0 1 3			医療管理	医療政策
担当責任教員	河原 和夫（東医歯大）	単位	1	担当大学	A		
世界各国の医療制度を理解するには、わが国の制度を詳細に理解することが前提となる。わが国は国民皆保険制度を運用しているが、国や地域のHealth Systemは、資源、組織、財政的基盤、マネジメント、サービス提供の各要素により特徴づけられる。英国などは税方式で医療制度を運用し、ドイツ、フランス等は公的社会保障により医療サービスを国民に提供している。また、米国は民間保険が主体であり、シンガポールのように貯蓄システムを採用している国もある。隣国に位置する中国の医療の発展からも目が離せない。先進国、開発途上国を問わず医療制度はその国の政治、経済、文化、人口構成などの影響を受け、それぞれの国で独自の制度が発展しており、どの制度にも長所、短所がある。講義では、わが国の医療制度の特徴を十分に理解した上で、各国の制度の特徴や問題点や課題について対処すべき政策等を考える。						○	
科目	4. 医療保険論	科目コード	4 0 1 4			医療管理	医療政策
担当責任教員	佐藤 主光（一橋大）	単位	2	担当大学	D		
高齢化の進展とともに我が国の医療費・介護費用は増加の一途を辿っている。これらの費用の多くは公的な医療保険、介護保険によって賄われているが、今後、こうした公的保険制度が破綻することなく国民に保険サービスを提供し続けられるのかどうかについては不安視する向きもある。人間は一人一人が生きていくなかで様々なリスクに直面する。例えば、車を運転して事故を引き起こすリスクであるが、これには自動車保険があり民間で供給されている。一方、病気になるリスクや長生きして貯蓄が底をついてしまうリスクに対しては民間の保険もあるが、社会保障が重要な役割を担ってきており、人々は給与の割以上も公的保険に支払っている。この講義では医療、介護保険に焦点をしばって少子高齢化社会を迎えるわが国の社会保障における保険の役割と課題について考える。						○	○
科目	5. 医療計画制度	科目コード	4 0 1 6			医療管理	医療政策
担当責任教員	河原 和夫（東医歯大）	単位	1	担当大学	A		
1985(昭和60)年の第1次医療法改正によって、地域医療計画の策定義務が都道府県知事に課せられることとなった。地域医療計画は、医療資源の地域偏在を是正し、その再配分を図るものである。病床不足地域での病床数増加にはある程度寄与したものの、それ以外の医療機器の適正配置や医療機能連携、医療の質の向上、標準化等にはまったく成果を上げてこなかった。2013(平成25)年度から精神医療と在宅医療が新たに医療計画の主軸に加わり、また、National Data Base(NDB)やDPCデータを用いて地域の医療課題を同定し、それらの解決に向けて計画の進行管理を行うマネジメント重視の医療計画へと手法の変更が行われた。しかし、実効性が問題視されるなど早くも計画は壁に当たっている。加えて2015(平成27)年度からは都道府県により地域医療構想が策定されることとなった。医療計画制度は現在、二次医療圏の設定や病床規制という当初の政策目標の重要性が薄れてきている。今後は、患者・住民の視線に立った医療機能の分化・施設間連携、病床の種別化等の供給体制の再構築、医療の質の向上・標準化などを通じて医療の近接性、平等性、効率性、安全性、質の問題が重視されることになるであろう。こうした時流の中、目的や対象が広がり我が国医療に大きな影響を及ぼすことになった医療計画制度を理解することを通じて医療政策の諸課題を考えていきたい。						○	
科目	6. 医療産業論	科目コード	4 0 1 7			医療管理	医療政策
担当責任教員	佐藤 主光（一橋大）	単位	2	担当大学	D		
本講義では医療産業の全体像や着目すべき最新動向などを様々な事例を通じて講義する。日本の病院経営の現状と課題、先進的な病院経営事例を取り上げる他、情報技術を活用したヘルスケア関連ビジネスが病院や消費者に与えるインパクトについて考察する。AI・IoTなど様々なデジタル技術が普及してきている中で、グローバルな展開も含めて日本の医療産業がどのように成長していくべきかを考える。医療の産業的発展には医療関連のデータベースの整備が欠かせない。日本及び諸外国(OECDやWHO加盟国)の医療費・介護費・ヘルスケア関連費についても講義する。医療データの活用により、どのような研究やビジネスの補助資料が作成できるか、今後の産業の発展に必要な示唆を受講者自らが考察できるようにすることを目標とする。							
科目	7. 医療経済論	科目コード	4 0 1 8			医療管理	医療政策
担当責任教員	佐藤 主光（一橋大）	単位	2	担当大学	D		
本講義では医療経済学の基本的な考え方を学ぶ。医療経済学の特色及び一般経済学との相違点に言及しつつ、医療に係る様々な課題を経済学等の視点から概観する。具体的には医療職不足問題などを理論と実証の両面から取り上げる他、欧米・アジアの医療制度など国際的な観点から日本の医療の問題・課題について考える。合わせて医療従事者の立場から、医療と経済についても講義する。特に高齢社会、超高齢社会における現在の医療システム・医療教育の在り方について考える。							
科目	8. 先端医療技術・産学連携	科目コード	4 0 1 9			医療管理	医療政策
担当責任教員	小池 竜司（東医歯大）	単位	1	担当大学	A		
医学の発展には医療技術の開発が不可欠であり、基礎的な研究を技術化して実用可能とするためには、産学連携が重要な役割を果たしている。本講義では、まず様々な立場を意識した産学連携の現状と課題について提示し、医療技術開発の基本的なプロセスや手法を理解する。さらに、先端的な医療技術開発の動向、知的財産の取扱いについて解説し、医療技術実用化のプロセスを体系化した科学であるレギュラトリサイエンスとして理解を深めるとともに、その意義と方向性について考える。						○	
科目	9. 介護保険・地域医療政策論	科目コード	4 0 2 0			医療管理	医療政策
担当責任教員	河原 和夫（東医歯大）	単位	1	担当大学	A		
医療制度改革の議論は耳にすることが多いが、それに劣らず有効に機能する介護保険制度および地域医療提供体制を確立することは国が目指す「地域包括ケアシステム」を実現する上で必須の事柄である。介護保険制度および地域医療提供体制に関する知識を身につけることは高齢社会に対処する上で、すべての国民に求められている。わが国の実情に最も適した介護保険および地域医療政策遂行の方策を考えていく。							

2. 医療の質確保とリスク管理						必修科目	
科目	1. 医療と社会の安全管理	科目コード	4 0 2 1			医療管理	医療政策
担当責任教員	河原 和夫（東医歯大）	単位	1	担当大学	A		
医療安全の推進が叫ばれて久しいが、安全・安心の社会を保持することは医療だけの問題ではなく、首都直下型地震や新型インフルエンザ、原子力関連事故等の医療に関わる健康危機管理事象への備えも必要である。加えて生活習慣等に起因する健康危機に対する個人レベルでの健康管理も現代社会では重要な課題となっている。講義では、これらの社会的要請が強い事象に関して、保健医療上の問題の本質を理解し、安全対策を進める上で不可欠な政策について考えていく。また、DMATの活動等についても言及する。						○	
科目	2. 医療機関リスク管理	科目コード	4 0 2 2			医療管理	医療政策
担当責任教員	高橋 弘充（東医歯大）	単位	1	担当大学	A		
医療機関における医療事故と感染症対策について講述する。医療事故の分析評価手法であるインシデントレポート、RCA、FMEAなどの有効性と限界、企業のリスク専門家からみた医療安全管理上の問題点と方策、医薬品の適正使用、感染危機管理のフレームワーク、感染対策委員会・インфекションコントロールチームの組織と機能、感染症アウトブレイクに対する危機管理の実例とシミュレーションなどについて、講義・演習を行う。						○	○
科目	3. 医療のTQM	科目コード	4 0 2 3			医療管理	医療政策
担当責任教員	高瀬 浩造（東医歯大）	単位	1	担当大学	A		
現代の医療に求められている質保障の範囲とレベルおよびその方法論について講述する。まず、質保障の概念、歴史、実践について製造業で培われた基本について検討する。つぎに、医療の質の3要素である医療技術水準、安全管理、患者経験について分析し、改善策を講じることが目的とする。品質管理方法としてのTQMの医療機関での導入方法について概説し、その重要なツールであるクリニカルパスの導入についても検討する。最終日には、医療機関を想定しcase studyを実施する。						○	○
科目	4. 医療機能評価	科目コード	4 0 2 4			医療管理	医療政策
担当責任教員	河原 和夫（東医歯大）	単位	1	担当大学	A		
戦後、我が国の医療提供体制は量的な整備を中心に進められてきた。しかし近年、医療安全や医療の質、そして患者対応等のいわば質的な保証を望む声が強くなってきた。それに伴ってこれらの事項を測る適切な指標の確立についても研究等が精力的に進められている。講義では医療機能評価の前提となる医療の量的・質的要件の考え方、経済的・財政的・診療報酬的観点からの評価、評価指標および評価方法等の諸問題、ならびに医療従事者および患者双方の立場から医療機能を向上させる方策についても考えていく。						○	○

3. 医療関連法規と医の倫理						必修科目	
科目	1. 医療制度と法	科目コード	4 0 3 1			医療管理	医療政策
担当責任教員	磯部 哲（慶応大）	単位	1	担当大学	D		
憲法を頂点とするわが国の法体系等の基本論点を解説したのちに、医療スタッフに関する法制度(医師や看護師等の身分や業務に関する法規)、病院や医薬品・医療機器に関する法制度(医療法、薬機法等)等の他、救急医療や在宅医療等の現代的諸問題を法律学の視点から概観する。日々日常の医療現場を支える法制度に関する理解を深めながら、法と医療の関わり方、法のあり方について考える。							○
科目	2. 医事紛争と法	科目コード	4 0 3 2			医療管理	医療政策
担当責任教員	滝沢 昌彦（一橋大）	単位	1	担当大学	D		
実際の医療過誤事例をケーススタディとして医事紛争の実際と法律的理解を扱う。すなわち、患者と病院・医師・看護師等の法的関係、民事責任、刑事責任などの法的責任、診療契約(医療契約)と契約責任、医師の説明義務・告知義務など医師と医療機関の義務、患者の同意・自己決定権などの権利義務、医事紛争の実情と原因、医療過誤の類型、医療過誤訴訟の現状と流れ、医療水準論、延命利益、医師の裁量その他の論点、医療過誤訴訟の問題点、リスクマネジメントと事故防止、実際に事故が起こった時の対応、損害賠償の実際、医師賠償責任保険の実情である。						○	
科目	3. 生命倫理と法	科目コード	4 0 3 3			医療管理	医療政策
担当責任教員	磯部 哲（慶応大）	単位	1	担当大学	D		
人の生命の始期・終期に関する諸問題、医学・生命科学の発達により惹起される法的・倫理的・社会的諸問題を、法律学の見地から検討する。以下のようなテーマを扱う予定である。①生命倫理の基本概念と医学研究規制をめぐる諸問題、②ヒト由来組織・ヒト胚の法的地位、クローン技術規制・再生医療規制、バイオバンク・コホート研究、診療情報・がん登録・遺伝情報等、③人工妊娠中絶、生殖補助医療技術、代理懐胎、出生前・着床前診断等、④終末期医療の諸問題(「安楽死」、医療の拒否・尊厳死、重度障害新生児治療等)、⑤脳死、臓器移植(生体間移植、組織・細胞移植、臓器売買等を含む)他。						○	

4. 病院情報とセキュリティ						必修科目	
科目	1. 病院情報管理学	科目コード	4 0 4 1			医療管理	医療政策
担当責任教員	高瀬 浩造（東医歯大）	単位	1	担当大学	A		
病院が有している管理情報および病院情報管理システムの運用に関する課題を検討する。まず最初に情報管理の基本について概説し、つぎに病院情報システムでのデータ管理、トランザクション管理およびシステム運用について講述する。また、医療安全情報・感染対策情報の取り扱い、医療情報における個人情報保護についても言及する。さらに、情報化された物流システムの運用および会計情報に基づく病院経営戦略のありかたについて具体的に検討する。加えて、医療機関において問題発生時に要求される情報管理の手順についても解説する。						○	○
科目	2. 診療情報管理学	科目コード	4 0 4 2			医療管理	医療政策
担当責任教員	伏見 清秀（東医歯大）	単位	1	担当大学	A		
診療情報管理の基本(歴史的経緯と法体系、診断情報の保存・保管手法、診療情報の証拠価値、電子化診療情報等)について講述し、加えて診療情報に関する倫理的課題を検討する。さらに、急性期医療における診療情報の標準化と活用が大きく影響している、DPC(diagnosis procedure combination)診断群分類とそれを用いた包括評価制度の観点から、現在求められている診療情報の精度、情報管理および医療制度設計に関して講述する。また、診療情報の活用の視点から、医療機能評価、診療プロセス評価、医療の質の評価、地域医療評価とともに医療経営評価等に関する手法の現状と将来に関して検討を加える。						○	
科目	3. IT時代の医療診断システムとセキュリティ	科目コード	4 0 4 3			医療管理	医療政策
担当責任教員	小尾 高史（東工大）	単位	1	担当大学	C		
IT時代をむかえ、患者データの管理はもとより、画像診断技術を中心とした医療のツールとしてのIT技術の役割は日増しに増大している。本講義では、診断・治療に供される最新の医用画像診断技術の動向について概説するとともに、IT技術を駆使した遠隔医療や、患者のプライバシーを確保するための各種のセキュリティ技術について講じる。なお、本講義では情報に関する専門的知識を必要としないよう、配慮する。							

5. 医療の国際文化論						必修科目	
科目	1. 医療思想史	科目コード	4 0 5 1			医療管理	医療政策
担当責任教員	吉本 秀之（東外大）	単位	1	担当大学	B	○	
知的な意味でも実践的にも、社会の諸分野との関連を深めて総合化する現代医療のあり方を再認識するために、現代世界の知的・制度的原理を作り出してきた西洋世界における、医に関わる思考の歴史のいくつかの局面をたどり、医の思想の近代における展開を、身体に関する考え方の変化や、近代の社会構造や産業システムなどとの関連で跡づけ、その到達点として世界的な課題となっている生命科学や現代医療のあり方を照らし出すとともに、今後の諸課題を考える。ギリシアの治療神アスクレピオスや新しい治癒神イエスの提起する「癒し」とは何かという基本的問いから始め、医療というものを、言葉を通して生を組織する人間の営み全体のなかに置き直して考察する。							
科目	2. 世界の文化と医療	科目コード	4 0 5 2				
担当責任教員	真島 一郎（東外大）	単位	1	担当大学	B		
グローバル化の波が世界の諸地域に与える影響をめぐって種々の議論が生じており、医療政策の分野もけっして例外ではない。多言語化、多民族化が進む我が国で、今後この分野での仕事に携わるものは、諸地域間の文化落差、死生観のちがいが、医療概念及びその実態に関する一定の知識と理解が要求される。本講義は、これらの要請をふまえ、世界各地の地域文化研究者によるリレー方式で行われる。							
科目	3. 世界の宗教と死生観	科目コード	4 0 5 3				
担当責任教員	土佐 桂子（東外大）	単位	1	担当大学	B		
今や医療においてもグローバル化が進み、日本人の患者だけを治療対象としておれない状況が生まれてきた。国籍や人種を越えて、担当患者の全人的な癒しを志す場合、当人の文化的および宗教的背景に対して、一定の知識と理解を備えている必要がある。また異文化・異宗教への理解を深めることは、日本人と日本文化に対する再発見を惹起するだろう。そのような意図の下に、本講義では世界諸宗教における死生観について検討したい。							

6. 施設設備と衛生管理						必修科目	
科目	1. 病院設計・病院設備	科目コード	4 0 6 1			医療管理	医療政策
担当責任教員	藤井 晴行（東工大）	単位	1	担当大学	C	○	○
建築計画の基本について概説する。病院施設の地域的計画、全体計画、各部門(病棟・外来・診療・供給・管理等)計画の基礎的事項について、人・物・情報の流れ、建物形態、面積規模、利用者への配慮等の観点から講述する。また、病院施設に求められる物理化学的環境とそれを創出する設備(空気調和・給排水衛生等)および関連する省エネルギー手法等について講述する。これらに関する病院施設の事例を紹介する。							
科目	2. 衛生工学・汚染管理	科目コード	4 0 6 2				
担当責任教員	湯浅 和博（東工大）	単位	1	担当大学	C	○	
医療施設における衛生的環境の確保は病院内感染の予防に向けた重要な課題であり、医療施設の管理運営や医療政策の実務を専門とする者は、医療施設内の衛生に関わる工学の基礎的知識を有し、汚染管理の基本理念を理解している必要がある。本科目では、施設の汚染管理の面から、汚染管理の原則、隔離手法、汚染源と汚染物質、空気清浄と空気調和、水利用、クロスコンタミネーションの防止、病院の廃棄物と処理、エネルギー管理などについて講述する。							

7. 経営戦略と組織管理						必修科目	
科目	1. 戦略と組織	科目コード	4 0 7 1			医療管理	医療政策
担当責任教員	荒井 耕（一橋大）	単位	1	担当大学	D	○	
医療提供を主たる事業とする経営体のリーダーにとって今ほど医療政策や医療技術の動向や医師と患者の関係の変化など、経営環境の複雑な変化を的確に把握するとともに、時代状況に適合した経営体の使命(ミッション)を確立し、その意義を医療スタッフをはじめとする経営体の構成員にわかりやすく説明する能力が求められている時はない。こうした能力を獲得するために、すぐれた経営の戦略と組織について深く考える。							
科目	2. 財務・会計	科目コード	4 0 7 2				
担当責任教員	荒井 耕（一橋大）	単位	1	担当大学	D	○	
医療提供を主たる事業とする経営体の経営管理者にとって、経営体が健全に運営されているか否かを常に把握しておく必要がある。また権限委譲した現場管理者に経営者として期待する方向に向かって努力を促す必要がある。会計システムはその最も有力な手段の一つであり、会計情報の理解と活用は経営者にとって不可欠の素養である。また、各時代の医療水準、各地域の医療ニーズに対応した医療を提供し続けるためには、しっかりした財務基盤が必要である。							
科目	3. 医療の人間工学	科目コード	4 0 7 3				
担当責任教員	青木 洋貴（東工大）	単位	1	担当大学	C	○	
人間工学とは、人間特性や処理メカニズムに適合させることで、人間にとって好ましいものを創り出していくための学問である。人間工学に存在する体系化された多くの知識・ツール・ノウハウは、人間中心型(患者中心型)の医療組織マネジメントを支援するための管理技術として活用できる。この授業では人間工学の基本的な概念、考え方を解説したあと、人間工学の医療への適用研究の事例をもとに、そこで利用するアプローチ、手法を紹介・解説する。							

8. 人的資源管理と人材開発						必修科目
科目	1. 人的資源管理	科目コード	4 0 8 1			医療管理
担当責任教員	荒井 耕（一橋大）	単位	1	担当大学	D	医療政策
人的資源管理は、人が仕事を通じて自ら職業人としてのみならず、人間としても成長したいという欲求を有していることを前提として職業能力と人間性の向上を支援する人事方針・計画、配置・移動、就業管理、人事評価、報酬管理、能力開発などの諸制度の設計と運用に関する管理思想・管理技術である。本講義では、現在の医療経営に適合的な人的資源管理のあり方を考究する。						○

9. 医療における情報発信						必修科目
科目	1. 医療とコミュニケーション	科目コード	4 0 9 1			医療管理
担当責任教員	岡田 昭人（東外大）	単位	1	担当大学	B	医療政策
最近、「インフォームド・コンセント」という言葉はよく取り上げられるようになってきたが、医療現場では、その他様々なタイプのコミュニケーションを円滑に行うことが不可欠である。医療現場は、まさに「人と人のコミュニケーション」の現場でもあるのである。本講義では、このような認識に基づいた上で、「語用論」、「対人コミュニケーション論」、「異文化間コミュニケーション論」などの基礎的部分を概観する。それらを踏まえたうえで、「実際の医療コミュニケーションに関する研究」などを紹介し、「医療とコミュニケーション」について、理論的、実践的な観点から考察する。						
科目	2. 医学概論	科目コード	4 0 9 3			
担当責任教員	高瀬 浩造（東医歯大）	単位	1	担当大学	A	
現在の日本の高等教育課程においては、医歯学・薬学・看護学などの臨床にかかわる分野に進学しない限り、医学の概要を学ぶことができないという現状がある。このことは、社会が医学ひいては医療を誤解する誘因となっているとも考えられる。医療管理政策学コースにおいては、入学者は必ずしもこの医療系の出身者ばかりではないため、医療人の思考過程の根底また価値判断の背景が理解しにくいという問題がある。この科目では、短時間の教育により医学の学問的概要と医療の実践的過程を解説し、必要最小限の理解を得ることを目的とする。これにより、一般社会と医学・医療との認識の隔たりの原因を探究するとともに、医療管理政策学を学習する上での医療の前提条件あるいは医学のコンセンサス形成の実態を習得する。加えて、背景領域によっては不足している可能性のある、研究計画法および論文作成法の基礎についても言及する。						

10. 臨床疫学						必修科目
科目	1. 臨床研究・治験	科目コード	4 1 0 1			医療管理
担当責任教員	小池 竜司（東医歯大）	単位	1	担当大学	A	医療政策
EBMの根拠となる臨床研究における無作為コントロール試験、症例対照研究、コホート研究、メタアナリシスの各研究デザインについて解説する。臨床疫学研究における生物学的バイアスの概念を講述し、医薬品の有効性や安全性を総合的に解釈するための手法としてのファーマコメトリクスについて概説する。これらの知識を背景とした医療開発のプロセス、関連法令や指針、国内外の現状と展望について具体的に紹介し、問題点を検討する。						
科目	2. 健康情報データベースと統計分析	科目コード	4 1 0 2			
担当責任教員	高瀬 浩造（東医歯大）	単位	1	担当大学	A	
医療政策および医療現場における意思決定には十分な情報の集積とそれに対する統計処理が重要となる。まず根拠に基づく健康政策の決定の実際について解説し、どのような情報と分析が有用であるのかを検討する。つぎに、情報の収集における留意点と統計処理について解説する。統計に関しては、アナログデータ(値)とデジタルデータ(度数)の挙動の違い、優越性試験と同等性試験の意義の違い、ネイマン・ピアソン統計(頻度統計)とベイズ統計(確率統計)の目的の違いなどを踏まえて、具体例を交えて医療統計の応用につき検討を加える。						

- ※ 修得すべき30単位の履修方法は、次による。
- ・医療管理学コース：必修科目16科目のうち13科目以上、その他の科目とあわせて合計22単位以上を履修し、課題研究8単位を履修する。
 - ・医療政策学コース：必修科目13科目のうち11科目以上、その他の科目とあわせて合計22単位以上を履修し、課題研究8単位を履修する。

- ※ 担当大学欄の記号は科目担当大学を示す。
- A：東京医科歯科大学担当科目
 - B：東京外国語大学担当科目
 - C：東京工業大学担当科目
 - D：一橋大学担当科目

- ※ 担当教員氏名は現在の予定であり、変更される場合もある。